

令和7年度 「新潟地域における広域災害への備え」 座談会



北陸道大潟PA付近の桜並木

日時 令和7年7月8日(火) 15時00分～17時30分
場所 アートホテル新潟駅前



株式会社ネクスコ・エンジニアリング新潟

発行にあたって

私たちネクスコ・エンジニアリング新潟は、「高速道路のホームドクター」として、新潟県内の高速道路を24時間365日守り続けています。地域社会の暮らしや産業を支えるため、安全・安心・快適・便利な高速道路環境を維持することは、私たちの大切な使命であり、仕事です。

新潟地域は日本海側特有の湿潤寒冷な気候にあり、冬の豪雪や強風、夏の豪雨など、さまざまな自然災害のリスクを抱えています。そのため、豪雪・豪雨はもちろん、いつ起こるか予測できない地震などへの備えは欠かせません。私たちは高度な技術力と迅速な対応力を活かし、緊急時にも強靱な体制で高速道路の健全性を守ることが私たちには求められているのです。

近年、自然災害や突発的な事象による社会的影響が増大し、企業活動においても迅速かつ的確な対応がますます重要となっています。災害発生時には、従業員とその家族の安全・命を最優先に考えつつ、高速道路インフラの維持・復旧を担う体制整備が不可欠です。また、災害対応は単なる緊急措置ではなく、平時からの準備と継続的な改善が必要となります。

こうした背景のもと、令和5年には「新潟県中越地震の教訓技術フォーラムin新潟」を、令和6年からは「新潟地域における広域災害への備え」座談会を実施し、社員が災害を自分事として考えて、備える機会としてきました。

令和6年度の座談会では、災害対応に強い組織であり続けるために、災害対応力を自律的・継続的にレベルアップするマネジメントの仕組みが必要であるというご示唆をいただきました。

令和7年度は、テーマ①災害対応の理念に基づいた基本方針、行動方針について、テーマ②災害時に臨機応変な判断力を養成するための仕組みについて議論を行いました。

座談会は災害について考え、社内の情報共有や課題抽出の場として機能し、BCPの改善や災害対応力の向上に直結する重要な取り組みです。本座談会を記録に残すことで、私たちの取り組みや思いを広く共有し、今後の災害対応力向上の一助となることを願っています。

座談会事務局

「新潟地域における広域災害への備え」 座談会

プログラム

- ◆ 開催日時：令和7年7月8日(火) 15:00～17:30
- ◆ 開催場所：新潟市中央区笹口1-1（アートホテル新潟駅前 越後西の間4階）

【開会あいさつ】

(株)ネクスコ・エンジニアリング新潟 代表取締役社長 澤田石 貞彦

【パネルディスカッション】

『テーマ① 災害対応の理念に基づいた基本方針、行動方針について』

『テーマ② 災害時に臨機応変な判断力を養成するための仕組みについて』

コーディネーター：公益社団法人 日本技術士会 東北本部 名誉本部長 熊谷 和夫 氏

パネリスト：学校法人 新潟工科大学 前学長 大川 秀雄 氏

国立大学法人 長岡技術科学大学 名誉教授 丸山 久一 氏

国立大学法人 長岡技術科学大学 名誉教授 長井 正嗣 氏

国立大学法人 和歌山大学 紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus

災害科学・レジリエンス共創センター 教授 西川 一弘 氏

福田道路(株) 東京本社 執行役員 三百田 健治 氏

(株)ネクスコ・メンテナンス新潟 代表取締役社長 小林 正俊 氏

(株)ネクスコ・エンジニアリング新潟 代表取締役社長 澤田石 貞彦

【閉会あいさつ】

(株)ネクスコ・エンジニアリング新潟 取締役 技術推進部長 松木 隆

株式会社 ネクスコ・エンジニアリング新潟
新潟地域における広域災害への備え 座談会



(左から) 西川一弘氏、長井正嗣氏、丸山久一氏、大川秀雄氏、熊谷和夫氏、三百田健治氏、小林正俊氏、澤田石貞彦

開会あいさつ



(株)ネクスコ・エンジニアリング新潟 代表取締役社長
澤田石 貞彦

こんにちは。今、紹介いただきましたネクスコ・エンジニアリング新潟の澤田石でございます。昨年に続きまして、「新潟地域における広域災害への備え」と題しまして、座談会を開催するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

まず、本日の座談会にパネラーとしてご出席くださいます、日本技術士会東北本部名誉本部長 熊谷様、それから弊社の技術アドバイザーでもあります新潟工科大学前学長 大川様、同じく技術アドバイザーの長岡技術科学大学名誉教授の丸山先生、それから同じく長井先生、和歌山大学の西川先生、福田道路執行役員の三百田様、ネクスコ・メンテナンス新潟社長の小林様、本日はご多忙の中、本当にありがとうございます。

昨年の座談会では多くの皆様にご参加いただきまして、今日も先ほど紹介がありましたが、会場とWeb合わせて200人を超える方がご参加いただけると聞いております。このような防災に関する座談会ではなかなか簡単には答えが出るものではございませんが、昨年度の座談会では、若い人たちに災害対応の経験をいかに伝承していくかということの大切さや、過去を振り返り常に防災を意識していくことの大切さ、そういった行動が大切であろうということについてのご示唆があったかと思えます。今回はこれをさらに進化させまして、防災対応の理念や基本方針、災害対応力や臨機応変な対応ができる判断力を養っていく仕組みをどうしていくのか、そういった視点でディスカッションができればと考えております。本日のディスカッションでは、広域災害における対処行動のヒントとなるような有意義な意見交換ができることを期待しております。

なお、消防庁の過去のデータを見ると、1945年の戦後から昨年までの80年間で、国内の自然災害で亡くなられた方、行方不明になられた方をトータルすると78,700人というような状況でございます。主なところでは2011年の東日本大震災では行方不明者含め22,000人、それから1995年の阪神・淡路大震災では6,400人あまりの方が亡くなられた、もしくは行方不明ということです。その他、昭和34年の伊勢湾台風では5,000人以上の方が行方不明となっています。あと福井の地震や枕崎台風でも3,000人以上の方が亡くなられるというデータがあります。

戦後15年ぐらいは比較的風水害が多く、被災が多かった状況かと思えますが、その後、気象予測などが改善されたことや河川の改修も進んだことで、大規模な被災者が出ることはなくなりました。それでも毎年数十人規模の災害が起きていることは事実でございます。一方、地震による被害については、マグニチュードの大きさによって状況は違うでしょうけれども、東日本大震災、阪神・淡路大震災、熊本地震といったところではかなりの人的被害が出ており、風水害等と比べると際立って地震の災害で被災者が出るという状況は、過去のデータから見ても明らかです。

特に防災の日のもとになりました1923年の関東大震災につきましては、10万人以上の方が亡くなられ、大半が火災で亡くなるということで、80年間で78,000人あまりという数値から比べても、いかにこの関東大震災が悲惨な状況だったかが思い知らされます。

昨年8月8日に日向灘で地震が発生し、その後南海トラフ地震臨時情報が発表されるなど、皆さまの記憶にも新しい出来事かと思えます。最近でも、災害に直面する機会が多く、改めて備えの重要性を感じさせられる場面が続いています。

全国的な動きを見ますと、平成25年には国を挙げた形で国土強靱化基本法が制定されました。その具体化がなされるのがこの6月6日ですけれども、第一次の国土強靱化実施中期計画というものが策定されました。このように過去から広域的な様々な災害を振り返り、一人でも多くの国民の生命、財産、暮らしを守るための取り組みがなされており、亡くなる方、被災される方をいかに抑制していくのかという取り組みが関係各所の組織でなされている状況かと思えます。我々も様々な分野、様々な企業の取り組みについて勉強していくことも必要なと思えます。

我々は社会インフラに従事する立場になります。特に広域な災害が発生した場合には、インフラ機能が一時的に停止する状況になりますが、これをいかに早く機能回復させ、人命救助や緊急復旧の対応ができるステージへ切り替えていくことが大切だろうかと思えます。そして、制約を受けながらも人々の日常生活を取り戻せるように支援していく必要があります。特に道路に関しては、様々な救援活動の基本になることもありますので、他の分野から比べてもいち早く交通機能を復旧させるのが我々の使命になってこようかと思えます。

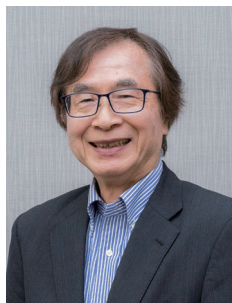
このような我々を取り巻く情勢を改めて確認し、我々がNEXCO東日本グループの一員としていかに災害があっても復旧できるかという組織づくりができるように取り組んでいきたいと思えます。そのための啓示になるようなディスカッションが今日はできればと思えます。若い世代だけでなく、指示を行う立場にある私たちにとっても、本日の議題を通じてさまざまなご示唆をいただきながら学びを深め、有意義な座談会となるよう進めていきたいと考えております。本日はよろしく願いいたします。

パネルディスカッション

パネリスト



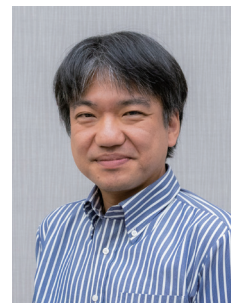
学校法人
新潟工科大学
前学長
大川 秀雄 氏



国立大学法人
長岡技術科学大学
名誉教授
丸山 久一 氏



国立大学法人
長岡技術科学大学
名誉教授
長井 正嗣 氏



国立大学法人
和歌山大学
紀伊半島価値共創基幹
Kii-Plus 災害科学・
レジリエンス共創センター
教授
西川 一弘 氏



福田道路(株) 東京本社
執行役員
三百田 健治 氏



(株)ネクスコ・
メンテナンス新潟
代表取締役社長
小林 正俊 氏



(株)ネクスコ・
エンジニアリング新潟
代表取締役社長
澤田石 貞彦



コーディネーター

公益社団法人
日本技術士会 東北本部
名誉本部長
熊谷 和夫 氏



司会

(株)ネクスコ・
エンジニアリング新潟
技術企画課長
新宮 純大



事務局

(株)ネクスコ・
エンジニアリング新潟
技術企画部 部付部長
鷺津 昌利

「新潟地域における広域災害への備え」 座談会

司会

皆様にご案内いたします。携帯電話をお持ちの方は電源をお切りになるかマナーモードに設定いただけますよう、今一度ご確認をお願いいたします。

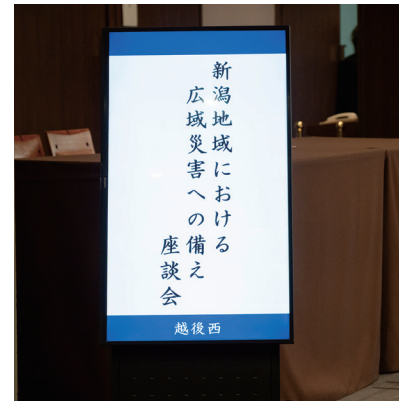
本日は100名を超える皆様に会場にお集まりいただきました。ありがとうございます。またWebでご視聴いただいている皆様もご参加いただきありがとうございます。

それではお待たせいたしました。「新潟地域における広域災害の備え 座談会」を始めさせていただきます。本日司会をさせていただきます技術企画課の新宮と申します。事務局として技術企画部の鷺津と一緒に進行させていただきます。よろしくお願いいたします。

それではパネルディスカッションの準備に移らせていただきます。コーディネーターの熊谷様、パネリストの皆様は前方の座席へ移動をお願いいたします。

初めにパネルディスカッションにご参加いただく皆様をご紹介します。

パネルディスカッションのコーディネーターは、会場の皆様から見て右手側一番スクリーン側にいらっしゃいます熊谷様をお願いしております。熊谷様は公益社団法人日本技術士会東北本部名誉本部長を務めていらっしゃいます。熊谷様よろしくお願いいたします。



コーディネーター 熊谷氏

熊谷です。どうぞよろしくお願いいたします。

司会

続いてパネリストの皆様をご紹介します。会場の皆様から見て左手スクリーン側から新潟工科大学 前学長の大川様です。

大川氏

よろしくお願いいたします。

司会

続きまして、長岡技術科学大学名誉教授の丸山様です。

丸山氏

よろしくお願いいたします。

司会

同じく長岡技術科学大学名誉教授の長井様です。

長井氏

よろしくお願いいたします。



司会

続きまして、和歌山大学紀伊半島価値共創基幹Kii-Plus 災害科学・レジリエンス共創センター教授の西川様です。よろしくお願いいたします。

西川氏

西川です。よろしくお願いいたします。

司会

向かって右手側に移りまして、福田道路株式会社東京本社執行役員の三百田様です。よろしくお願いいたします。

三百田氏

三百田でございます。

司会

続きまして、株式会社ネクスコ・メンテナンス新潟代表取締役社長の小林様です。よろしくお願いいたします。

小林氏

小林でございます。よろしくお願いいたします。

司会

最後、右手側一番手前が代表取締役社長の澤田石となります。

澤田石氏

よろしくお願いいたします。

司会

以上8名でディスカッションを行ってまいります。よろしくお願いいたします。それではパネルディスカッションに先立ちまして、昨年度行いました座談会について振り返りたいと思います。昨年度は二部構成としており、第一部は先ほどご紹介させていただいた西川様より「鉄道防災教育と防災学習のあり方ー鉄學の取組みー」についてお話しいただきました。第二部では「広域災害においてBCPに求める方向性」と「若手社員の防災教育」をテーマにディスカッションがおこなわれました。その中では災害対応の基本理念や、災害時に臨機応変な判断力を養成する仕組み、DNAを持った人材育成を進めていくことが確認されました。早速ですがパネルディスカッションを始めたいと思います。ここからは今年度のテーマの紹介や進行を含めましてコーディネーターの熊谷様にもご参加いただきます。よろしくお願いいたします。

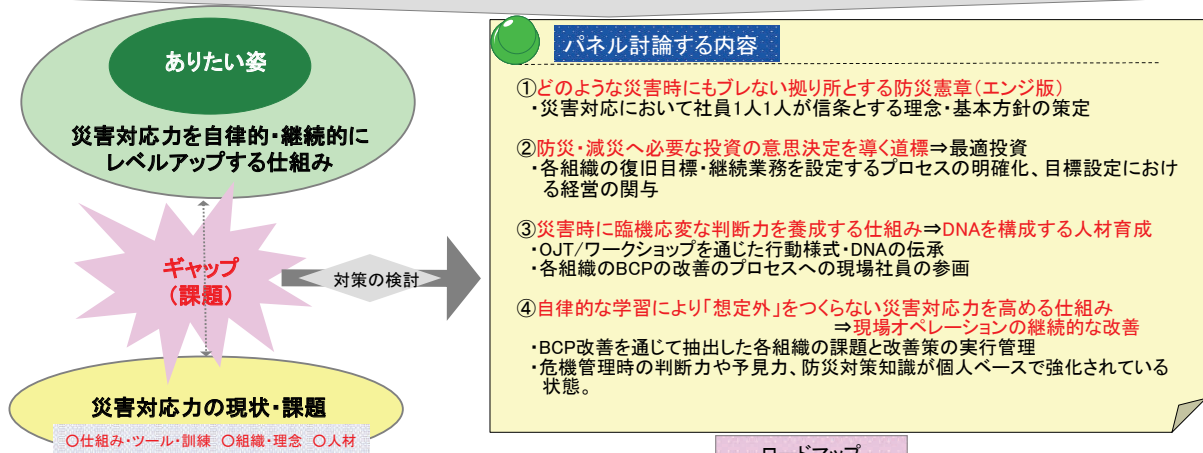
コーディネーター 熊谷氏

それでは皆さんどうぞよろしくお願いいたします。今日はたくさん集まっていただきましてありがとうございます。皆さんの熱意があふれている感じがします。我々も皆さんと一緒にしっかりやっていきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。 それでは、これからパネルディスカッションを始めるわけですが、まず今年のテーマについて事務局から説明していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

「新潟地域における広域災害への備え」 座談会

令和7年7月8日
株ネクスコ・エンジニアリング新潟

★エンジ新潟が、災害対応に強い組織であり続けるために、
災害対応力を自律的・継続的にレベルアップするマネジメントの仕組みをもつこと



ロードマップ

検討する項目	2024年度 ★キックオフ	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
①災害対応の理念・基本方針	理念・基本方針策定	→	→	→	→	→
②復旧目標・継続業務を設定するプロセス(過去の経験を精査)			重要災害に対する災害対応	→	→	→
③DNAを構成する人材育成		災害対応力の高い人材の育成	→	→	→	→
④現場オペレーションの継続的な改善				危機管理時の判断力や予見力	→	→

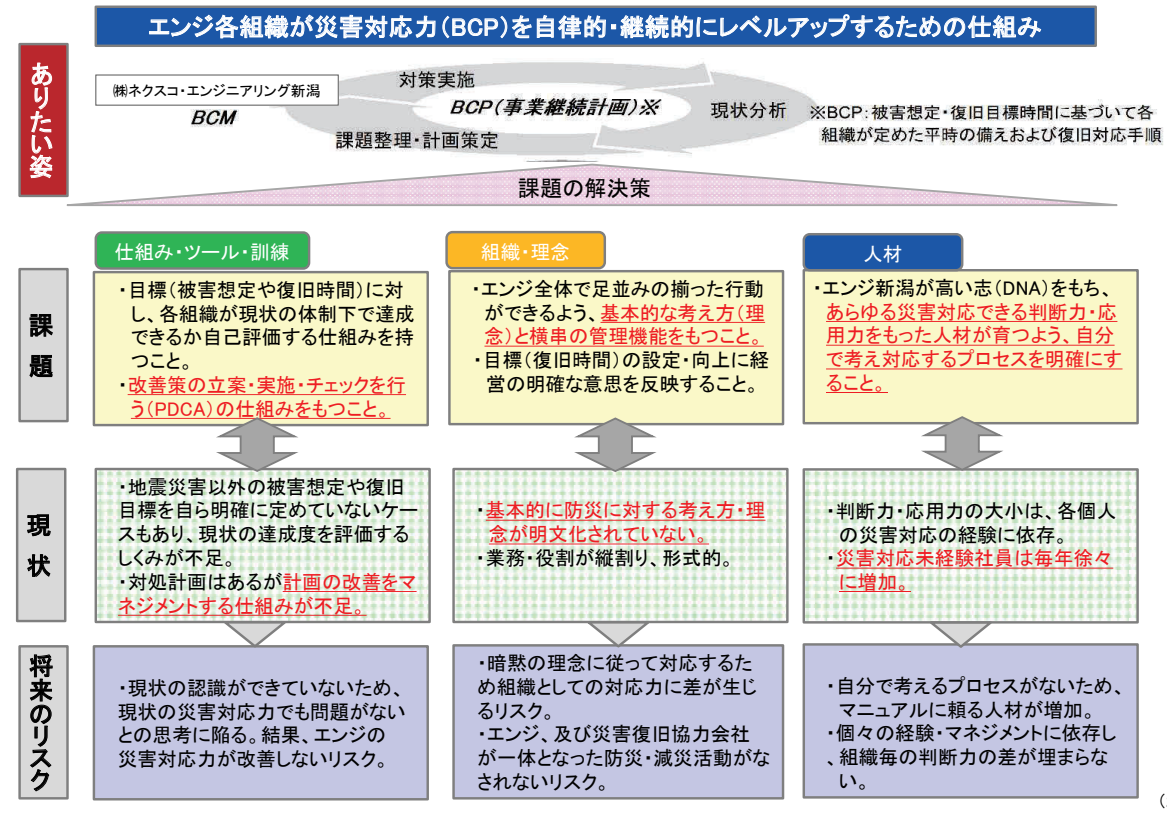
継続

(1/15)

事務局

はい。それでは事務局より、座談会の目的と検討テーマにつきまして説明をさせていただきたいと思っております。本座談会の目的は、エンジ新潟が災害対応力を自律的、継続的にレベルアップする仕組みを持つこと、それをありたい姿としてツールや訓練、組織・理念、人材育成における現状とのギャップを埋めるために「①災害対応の理念・基本方針」「②重要災害に対応するための組織の意思決定やプロセス」「③災害時に臨機応変な判断力を養成するための人材育成」「④現場オペレーションの継続的な改善」の4つのテーマにつきましてパネル討議でありたい姿に向けた方向性をパネラーの皆様よりご示唆いただくことを目的としてまいります。昨年度キックオフとして「①災害対応の理念・基本方針」「③災害対応力の高い人材育成について」議論いただきました。今年が2年目の開催となりますが、今年のテーマですが昨年度の内容を深掘りするために「①災害対応の理念・基本方針」「③災害時に臨機応変な判断力を養成する仕組み」とさせていただきます。具体的には、先ほど提示したエンジ新潟のありたい姿を実現するための課題のキーワードとして「仕組み・ツール・訓練」「組織・理念」「(特に若手技術者育成に焦点を当てた)人材」としてそれぞれの課題、現状、将来のリスクについて整理しました。また、ありたい姿を実現するための第1歩として昨年議論いただいた「組織・理念」の「基本的な考え方と横申の管理機能を持つこと」について社内検討し、ご示唆いただいた内容を踏まえ新たに作成しております。

エンジ新潟が、災害対応に強い組織であり続けるために、 災害対応力を自律的・継続的にレベルアップするマネジメントの仕組みをもつこと



作成した内容については、今年度のテーマ「①災害対応の理念・基本方針」として会社の基本方針(案)と社員の行動方針(案)を紹介させていただきます。エンジ新潟のありたい姿として掲げている防災業務計画と本座談会の関係を整理しました。座談会の内容は、現場の災害対応力を高めるための施策やギャップを埋めて、エンジ新潟が自律的、継続的な防災計画を策定、更新するためにご示唆いただきたいと思います。エンジ新潟をはじめ、NEXCO東日本グループ全体が、いつ緊急事象が発生しても常に危機感を持って行動できる組織になることを期待しております。ここまで、本座談会の枠組みと目的、今年度のテーマについてお話しさせていただきました。事務局からは以上となります。

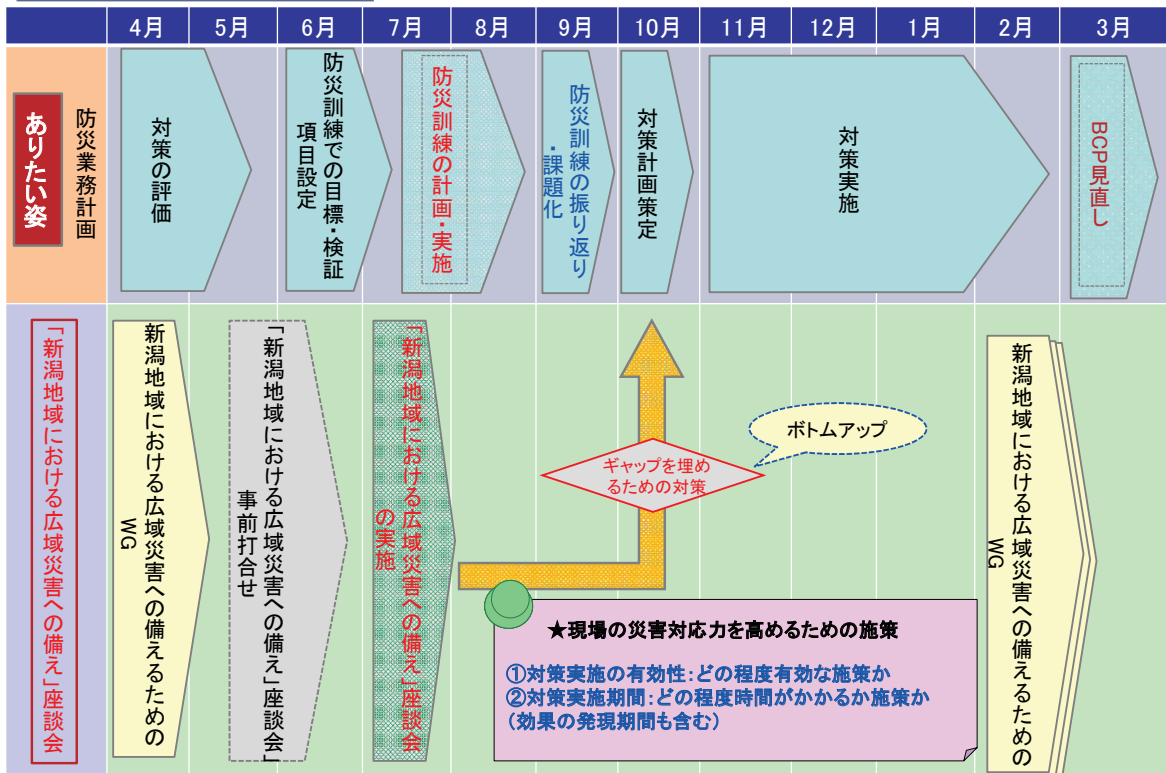
コーディネーター 熊谷氏

どうもありがとうございました。全体的な話をさせていただいたわけですが、やはり基本となるのは防災そして危機管理業務ということだと思っんですね。これについて、もう少しご説明をさせていただきたい。要は、基本となるものはこうなんだ、エンジ新潟が今やろうとしていることはこうなんだということを教えていただきたいということです。よろしくお願いします。

BCM(災害対応力の向上) = BCPの改善

R6.11.12 「新潟地域における広域災害への備え」座談会 事務局

☆防災業務計画と座談会との関係



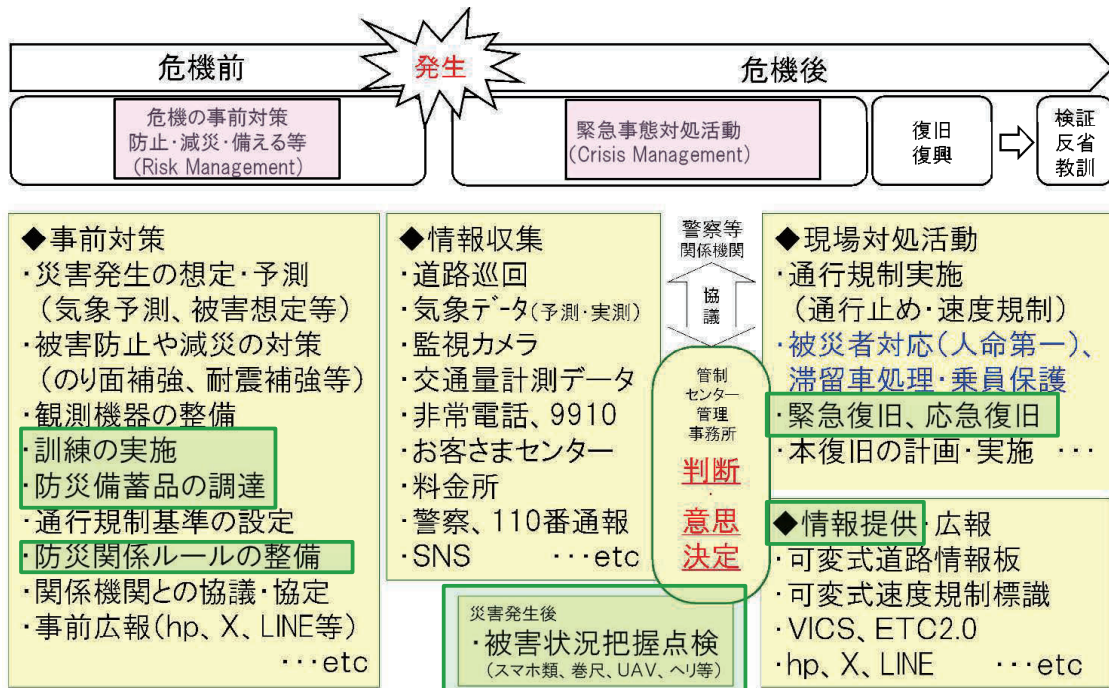
※BCPは、被害想定に対して現状の防災対応力を示したものであり、その現状を踏まえ、防災対応力の向上を図る仕組みが事業継続マネジメント(BCM)

(3/15)



防災・危機管理業務の流れ

● ネクスコグループ全体の防災・危機管理業務の流れは以下のとおりであり、エンジ新潟が行う業務を緑枠で示す。



凡例: エンジ業務

出典: ネクスコ東日本「令和6年度防災・危機管理研修 I」抜粋

(4/15)

事務局

はい。それでは、NEXCO東日本グループが行う防災危機管理業務の流れより、常時と災害時にエンジ新潟が行う事前対策と、緊急事態時の対処活動について説明をさせていただきたいと思っております。まず、危機前の常時に行う事前対策、いわゆるリスクマネジメントとしましては、防災訓練の実施、防災備蓄品の調達、防災関連のルールの整備が挙げられます。また、緊急事態が発生した場合の対応、いわゆるクライシスマネジメントとしましては、エンジ新潟では高速道路等の被害状況を確認するため、UAVなどを用いた撮影、解析や点検員の現地調査による被害状況把握点検を行っています。得られた情報や点検結果をNEXCO東日本へ報告し、それに基づき新潟支社、各管理事務所が判断しまして、意思決定されました結果に基づき、緊急復旧、応急復旧のための支援を実施いたします。これには設計等も含まれます。

なお、各スライド左上に先ほどご説明したキーワードを掲載していますのでご確認ください。

仕組み・ツール・訓練

【参考】エンジ新潟本社防災訓練① 〈概要〉

令和6年度 エンジ新潟本社防災訓練タイムスケジュール ◆実施日 令和6年8月29日(木)



◆被害想定 中越地域直下地震(M7.0:管内最大震度6強)
 ⇒津波警報等の発令なし
 ⇒長岡市内: 電力(停電)、上水道(断水)、ガス(停止)、電話(つながりにくい)

番号	実施項目	内容	参加者 幹部課長代理担当	タイムスケジュール								備考		
				6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00				
1	社員等の安否確認訓練	6:00~ 安否確認システムを用いた訓練	全員	メール回									安否確認メール受信後、速やかに返信	
2	非常参集訓練	7:00~8:00 本社への参集	一 設置訓練対象者(8名)		参集								設置訓練未経験者を中心としたメンバー(新入社員含む)	
3	災害対策本部設置訓練	8:00~9:00 本社対策本部設置	一 本社(8名)			設置							LiveON接続・TV(NHK)視聴	
4	災害対策本部運営訓練 (9:00~12:00)	9:00~9:10 (TV会議接続) (発災後3時間を想定) 1. 社長訓示 2. 訓練内容等の説明	訓練参加者				災害対策本部運営訓練						9:00までに本社防災対策室に集合(通常出勤)	
		9:10~9:30 【社員教育】 1. 防災対策要領・BCPについて					社長訓示						社長訓示、訓練内容等の再周知、TV会議接続	
		9:30~10:20 【シナリオ型訓練】(本社・各事務所) 1. 安否確認訓練結果報告・共有 2. 参集状況の報告・共有 3. 被災情報等の収集・共有 4. 体制構築の報告・共有		総括班(企画統括部) 技術企画部 総務班(総務部)			情報収集・整理・共有						・参集状況、安否確認訓練結果、被災情報、体制構築 ・エンジンや現地対策本部からの情報を整理 ・全体へ共有する訓練(情報伝達共有訓練) ・UAVによる現地通信接続準備 等	
		10:20~11:20(各班30分) 【実技型訓練】 1. 各事業部APIに関連した実技・取組み等報告 2. 災害協定会社との連携訓練(上記時間内で適宜実施)		土木班(土木事業部) 施設班(施設事業部)										・災害対策車の現地配備 ・ドローン飛行による現地映像の配信(Zeem) 等
		11:20~11:40 【社員教育】 1. 国民保護業務について												
11:40~12:00 講評:(本部)総括・副総括責任者												自家発電設置のSA・PAの発電機切替優先度Aの路上設備の発電機切替 等		
5	非常食炊き出し訓練	12:00~13:00 非常食を用いた試食	全員										非常食試食 炊き出しはしません。	

(5/15)

エンジ新潟で行っている防災訓練の昨年度の概要を説明させていただきます。朝6時に災害が発生した想定で社員等の安否確認の一斉メールが送信されます。社員は自身の安否や家屋等の被害状況を返信します。その後、7時までに新入社員を含む災害未経験者を中心とした非常参集訓練を実施し、8時から災害対策本部設置訓練と、9時からは災害対策本部運営訓練として各拠点とテレビ会議を接続しシナリオに沿った訓練、UAV撮影などの実技型訓練を行います。 昨年は社員教育として、エンジ新潟の防災対策要領やBCP、国民保護法などの解説も行いました。別日には、本社が水没した想定で、新潟道路事務所での災害対策本部設置や放射能測定器使用・防護服着脱や衛星電話による各拠点との通信訓練なども行っております。

別日開催

番号	実施項目	内容	参加者		備考
			幹部	課長代理担当	
1	災害対策本部設営訓練	新潟(道)対策室設営	一部	本社所属 複数名	
2	放射能測定器使用訓練	使用方法の確認訓練	—	本社 各事務所	
3	防護服着脱訓練	防護服着脱方法などに関する講習	—	社員	
4	衛星電話による通信訓練	KDDI、ドコモ衛星電話を用いた通話訓練	—	本社 各事務所	各事務所と本部相互で通信確認実施する。



人材

発災後における時系列に伴う優先業務の流れ

- 災害等有事におけるNEXCO東日本グループにおける事業継続業務及び優先すべき業務は以下のとおりであり、エンジ新潟が行う業務を緑枠で示す。



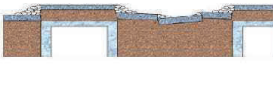
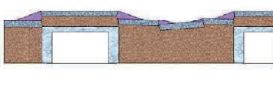

凡例: エンジ業務

出典:「地震災害時の事業継続計画(NEXCO東日本社版)」 (7/15)

次に、発災後における時系列に伴う優先業務の流れとしまして、緊急事態発生時にNEXCO東日本グループ全体で行う優先すべき業務です。発災後1時間以内に災害対策本部が設置され、3時間以内に状況把握として照明設備や情報板、標識や路面など道路施設の点検や緊急復旧作業に着手します。また、1日以内に緊急復旧作業の完了目標として進捗状況の把握が行われます。スライドの緑枠で囲ったものがエンジ新潟の主な役割となります。

- 事業継続計画BCP地震編に定められた目標復旧時間と復旧対応内容は以下のとおり。

NEXCO東日本では、大規模地震により損壊した高速道路機能を早期回復するための基本的な復旧対応を段階ごとに定めており、各段階の「目標復旧時間」と「復旧対応内容」について、『地震災害時の事業継続計画(本社版)』に下記のとおり記載している。

目標復旧時間	復旧段階	復旧対応内容	復旧イメージ
発災から 24時間以内	緊急車両の通行帯を確保 【緊急復旧完了】	自衛隊・警察・消防などの 緊急通行車両の通行 を最優先に可能とする復旧 〔速度は関係なく通行が可能な復旧とし、土のうや碎石等により段差乗り越えが可能な状態〕	
発災から 3日以内	緊急車両の通行車線を確保	緊急通行車両及び災害派遣従事車両がより迅速かつ円滑に走行 できるよう通行車線（1車線）を確保 〔土のうや碎石等から舗装による簡易すり付け等〕	
発災から 7日以内	通行止めを解除して一般開放 【応急復旧完了】	災害派遣従事車両及び 一般車両の通行を応急的に可能 とする復旧 〔速度規制を前提とした舗装による段差修正等〕	

出典:「地震災害時の事業継続計画(NEXCO東日本本社版)」

(8/15)

地震災害時の事業継続計画（BCP）に定められた目標復旧時間と対応内容を説明します。これはあくまで目標復旧時間であり、未曾有の大災害の場合はその通りに行かないこともあり得ます。発災から24時間以内に緊急車両の通行帯を確保、3日以内に1車線を確保、7日以内に応急復旧を完了させるというタイムラインです。

人材

目標時間と優先すべき業務

● NEXCO東日本グループにおける目標時間と優先すべき業務は以下のとおりであり、エンジ新潟が行う業務を緑枠で示す。

目標時間	実施すべき事項	優先すべき業務	
		具体的最優先業務	その他業務
発災後直ちに	【災害対応への自動発動】 【災害情報の収集】	<ul style="list-style-type: none"> 計則震度による通行規制 人命救助(緊急避難誘導含む) 防災体制要員の非常参集 ※勤務時間外は防災担当者での対応 防災体制の半断・発動(総括責任者等の所在確認) 非常災害対策本部の設置 災害情報の収集 社員・家族の安否確認開始(災害モード) 災害情報の収集 社員・家族の安否確認 社屋等施設の安全確認 道路管制センターの被災状況確認 お客さま対応(安全確認) 第一次状況把握点検の開始(交通管理隊) 緊急ヘリ撮影の出動要請(岩槻道路管制センターへの出動要請) 	
1時間以内	【災害対応体制の確立】 【災害情報の収集・把握】 【情報(第一報)の発信】	<ul style="list-style-type: none"> 初期体制の構築と支社災害対策本部との連絡体制構築 関係機関との連絡調整(発信) お客さまの安全確認 災害時支援エリア(防災機能強化エリア)の被災状況と使用可否確認 第一次非常参集者(防災宿舎)構成 	
3時間以内	【災対法に基づく区間指定の決定】 【第一次状況把握点検の完了】 【緊急復旧作業の着手】	<ul style="list-style-type: none"> 非常災害対策本部の開催(第1回)[以降は適宜開催] (内閣府・国土省)、首都高へのリエゾン派遣体制構築 関係機関との連絡体制構築 関係機関との連絡調整(発信) 災害対策基本法に基づく区間指定の決定(災害時の車両移動等) 第一次状況把握点検の結果把握と情報提供 第二次状況把握点検の開始(技術者) 緊急復旧作業の開始(被災箇所) 緊急ヘリ撮影箇所の指示 お客さまの安全確認(情報提供) 応援派遣要請の必要可否検討開始 滞留車両流出体制の構築 関係機関との連絡調整(発信) 緊急ヘリ撮影の完了と撮影データの資料化 	
6時間以内	【第二次状況把握点検の完了(緊急ヘリ撮)】 【緊急復旧作業の体制強化(応援派遣要請等)】 【二次災害の防止対応】	<ul style="list-style-type: none"> 第二次状況把握点検の結果把握と情報提供 被災状況の集約 復旧計画(補充順位等)の策定 応援派遣要請(他会社・協力会社・防災エキスパート等) 関係機関との情報共有 二次災害の防止対応策定 	
9時間以内	【緊急交通路指定の調整(決定)】	<ul style="list-style-type: none"> 緊急復旧作業状況の把握(八方向啓開路線の24h以内完了可否) 国、警察等との緊急交通路指定路線の調整(決定) 応援協力会社等が順次現場到着、作業着手 本線上の滞留車両流出作業に着手 本線外徒歩点検の開始(技術者) 	
12時間以内	【応急復旧作業に向けた調整】	<ul style="list-style-type: none"> 緊急復旧作業の24h以内の完了見通し 異常がない区間の通行止解除(緊急交通路と要調整) 応急復旧作業に向けた調整開始 復旧機械用燃料(ガソリン・軽油)や自家発電機用重油の確保の検討 	
24時間以内	【緊急交通路の指定(確保)】 【緊急復旧作業の着手】	<ul style="list-style-type: none"> 緊急復旧作業の完了 緊急交通路指定区間の滞留車両の車線排除完了 緊急交通路の運用開始(当初区間) 応急復旧作業の体制確保・順次着手 応急復旧作業の完了見通し 舗装の簡易すり付けによる緊急車両の通行車線確保 	
3日以内	【緊急車両の通行車線確保】	<ul style="list-style-type: none"> 緊急復旧作業の完了 	
7日以内	【応急復旧作業の完了】(一般開放) 【本復旧工事の検討開始】	<ul style="list-style-type: none"> 応急復旧作業の完了 順次、通行止めの解除(緊急交通路指定の解除) 本復旧工事に向けた検討開始 	

凡例: エンジ業務

出典:「地震災害時の事業継続計画(NEXCO東日本本社版)」

(9/15)



- 震災点検の種類と目的は以下のとおりであり、エンジ新潟が行う業務を緑枠で示す。

表-1 震災点検の種類と目的

種類	計測震度	目的
一次状況把握点検		概括的な被害状況を迅速に把握し、点検、復旧の体制を早期に確立することを目的とする。
二次状況把握点検	5.5以上	走行に支障となる被害を詳細に把握し、道路通行規制の継続・解除の判断及び災害応急対策の基本方針を策定することを目的とする。
状況把握点検	4.0以上 5.5未満	走行に支障となる被害を把握し、道路通行規制等の継続・解除の判断及び災害応急対策の基本方針を策定することを目的とする。
応急復旧点検	必要に応じて	状況把握点検（二次状況把握点検も含む）によって走行に支障となる被害が確認された場合に、応急復旧の計画等を策定するため、必要となる情報を収集することを目的とする。
補足点検	4.0以上	走行に支障がなく、道路通行規制を解除した場合においても、軽微な被害の有無及び被害状況を補足的に把握することを目的とする。

凡例: エンジ業務

出典:「災害点検要領(NEXCO東日本本社版)」抜粋

(10/15)

エンジ新潟では高速道路の応急復旧に向け、第一次・第二次状況把握点検の実施と報告、被害状況の集約を行うことが最優先業務となります。地震発生時に計測された震度別に行う状況把握点検の種類と目的も定められています。一次状況把握は主に車上から路面の段差など交通の支障の有無を迅速に把握し、二次状況把握以降は応急復旧に向け、車上もしくは徒歩により盛土や橋梁などの構造物を含めた被害状況を把握するための点検となります。また、状況把握点検で得られた情報を所定の様式に記載し情報共有を行っています。現在は、iPadのアプリ「防災GIS」を使用し記録することで、NEXCO東日本グループ全体での情報共有が行われております。以上が防災危機管理業務の流れの概要となります。事務局からの説明は以上となります。

コーディネーター 熊谷氏

どうもありがとうございました。先ほど防災訓練の中で社内教育をされているということもありまして、社員の皆様にはこの仕組みについて説明を行っているという認識でよろしいですか？

事務局

その通りでございます。

コーディネーター 熊谷氏

大体それは年に1回ですか？

事務局

今年度の取り組みが初めてで、計画段階でございます。

コーディネーター 熊谷氏

これから進めていろんな計画を作っていくということでよろしいですかね？

事務局

はい、そうです。

コーディネーター 熊谷氏

何か質問などありますか？

長井氏

訓練をされているということで非常にいいことだと思うんですけども、例えばその訓練が終わった後にアンケートとか、どういう反応があるのか、社員の参加した人から一方的じゃなくて、レスポンスを受けるような体制はあるんでしょうか？

事務局

エンジ新潟の防災訓練の後の振り返りとしまして、社員からの意見を徴収しまして、次年度の計画に反映していくというサイクルでやっております。

コーディネーター 熊谷氏

具体的にどのような意見が来てますか？

事務局

一般的に現地からの画像とかやるんですけども、画像の乱れとかなかなか音声がつながらないとか、通信手段の課題が浮かび上がることが多々あります。



コーディネーター 熊谷氏

どうもありがとうございます。基本的なことですよ。情報が一番大切といわれる中でそういう質問があるということは事務局にとっては非常にうれしいことかもしれませんね。他、先生ございませんか？

西川氏

訓練の評価なんですけども、振り返りはやられているということで、それはすごい大事だと思います。さらに、訓練やった時に、そのやる前とやった後、よくあるビフォーアフターですよ。そのビフォーアフター評価っていうのは取っておいた方がいいのかなと思います。訓練をやって最後に、アンケートあるいは振り返りの会で、「どうでしたか？」だけだと、結果しか聞けません。実際にやった訓練の効果を測るのであれば、当然前の段階での知識量と後の知識量を測る。まあ増えてないと困るんですけども。そういった訓練自体の評価もそうだし、参加されている方々の自信とか、危機に関する認識とその行動の差みたいなのをきっちりデータとして取っていくっていうのは、より高みを目指すためには大事な視点かなという風に思いました。



コーディネーター 熊谷氏

どうもありがとうございます。これからもネクスコグループの一員として皆さんが頑張っていくための目標ですから、これから実現するために努力を宜しくお願いします。では、今年のパネルディスカッションのテーマ1について、事務局から説明をお願いします。



1. 目的

- どのような災害対応においても、ブレない拠り所とする理念や誰が見てもわかる根本的な基本方針を取り決めた「エンジ新潟 防災憲章」を制定するものである。

2. エンジ新潟 防災憲章

- 私たちは、災害発生時においても安全を最優先に行動して、命を守ること、社会に貢献するための基本方針と行動方針を定めます。

《基本方針》 ※会社が社員に対して宣言する災害時の基本方針

- ① 会社は社員とその家族の命を守ること、お客様の安全安心を守ることを第一使命とします。
- ② この使命を達成するため会社は災害発生情報を迅速で的確に発信し全社員に共有します。
- ③ 災害発生時には、エンジ新潟が一丸となり新潟支社グループと緊密に連携して一刻も早い道路機能の復旧を目指します。

(13/15)

事務局

はい。それでは、今年のテーマにつきまして説明をさせていただきます。昨年のパネルディスカッション第一部のテーマ「広域災害においてBCPに求める方向性」の中で、「災害対応を行う上で会社としてどうするか、個人としてどうするか、それを考えなければならない」というご意見をいただき、災害対応の基本的な考え方と横申の管理機能を持つことについて検討することとしました。まず、エンジ新潟 防災憲章（案）には「私たちは、災害発生時においても安全を最優先に行動して、命を守ること、社会に貢献するための基本方針と行動方針を定めます」を理念とし会社は社員の安全を第一とする、お客様の安全を確保する、社員が安心して業務を遂行できるよう家族の安全を確保すること。社員は災害時はもちろん、普段から緊急事象発生時に迅速な行動を行うことを共通認識として持てるような「基本方針」と「行動方針」を検討してまいりました。これにつきましてパネラーの皆様よりご意見をいただきたいと考えております。尚、この「基本方針」と「行動方針」ですが、社内の各部署の筆頭課長会議の中で素案を作成し、プロパー部長会議で議論したものでございます。

まず、どのような災害対応においてもぶれない拠り所とするために災害発生時において安全を最優先に行動する事、命を守ることそして社会に貢献することを掲げております。

災害対応の拠り所となる基本方針ですが、

1. 会社は社員とその家族の命を守ること、お客様の安全・安心を守ることを第一使命とします。
2. この使命を達成するため、会社は災害発生情報を迅速で的確に発信し、全社員に共有します。
3. 災害発生時には、エンジ新潟が一丸となり、新潟支社グループと緊密に連携して、一刻も早い道路機能の復旧を目指します。

この3つを基本方針としました。

《行動方針》 ※社員が会社の基本方針に基づき行動する方針

- ①災害発生時は、自分と家族の命と安全を守ることを第一優先とし行動します。
- ②社員は、個々の状況を確認したうえで、会社として事業継続計画に基づく行動を実践します。
- ③過去の経験と最新の知見をもって、常日頃から起こりうるあらゆる災害を想定した行動に努めます。
- ④日常の業務を怠らず現場状況や業務体制を常に把握することに努めます。

(14/15)

コーディネーター 熊谷氏

引続き行動方針の説明をお願いします。

事務局

続いて、社員が常に心掛けておく行動方針ですが、

1. 災害発生時は自分と家族の命と安全を守ることを第一優先として行動すること。
2. 社員は個々の状況を確認した上で、会社として事業継続計画に基づく行動を実践すること。
3. 過去の経験と最新の知見を持って、常日頃から起こり得るあらゆる災害を想定した行動に努めること。
4. 日常の業務を怠らず、現場状況や業務体制を常に把握することに努める。

この4つを行動方針としました。

また、昨年度のパネルディスカッションでお話いただいた、「自分の命と家族を守る、身近な人の命を守る」ということ、「安全を確保して会社に行って何をするか」ということ、「普段の業務から災害時の行動を含めて考えて行動する」ことなど「いかに災害のイメージをもって自分の行動を決めていくか」ということ、「災害時に我々が確固たる意志をもって自主参集して迅速な対応を行い高速道路をしっかりと通して、物流と人の流れを確保して人々の暮らしを支えること」について「具体的な事例に踏み込む」という段階まで及んでいませんが今回は包括的な方針として事務局案を提示させていただきました。この方針については本日のパネルディスカッションでご意見をいただいた上で決定したい議題となります。

コーディネーター 熊谷氏

そうですね。どちらかという憲法みたいなもので具体的なケーススタディとしてはこれから進めていくということですね。それでは、エンジ新潟として社員の皆さんの意見も踏まえてこのテーマIの目的、そしてエンジ新潟の防災憲章、基本方針、行動方針を決めたということで我々の意見をいただきたいということでしたので、これから進めていきたいと思います。それでは基本方針について、ご意見をいただきたいと思います。では、西川先生どうですか？

西川氏

ありがとうございます。皆さんでまとめられたということで、そのまとめ方はすごい大事だなと、伺って思いました。市町村であれば長期総合計画とかが最上位計画なんですけども、コンサルに投げて、あとはほったらかしみたいなのがある中で、当事者の皆さんの意見を踏まえながらまとめたっていうところは、とても大事だなと思いました。どうやって広がっていかけてことが、次の課題になってくるのかなと思います。かなりシンプルな文言だと思うので、これぐらいの分量であれば、胸ポケットに入れるリーフレットサイズにして全員が持つとか、鉄道会社であれば乗務員の札の裏に貼られているということもあったりするので、すぐ見れるものを作って、それを元に広げることが大事なのかなと思いました。



コーディネーター 熊谷氏

大川先生いかがですか？

大川氏

私、その基本方針は、まさにおっしゃる通りで全くその通りだよということでございます。それで、結局何が大事かということなんです。その行動方針の最後のところ、「日常の業務を怠らず」ということなんですよ。中越地震の時に、NEXCO本体の新潟支社の方から相談を受けて、その時自分の知見をご披露しながら色々やったわけなんです、その年末に技術者の皆さんが忘年会をやるから来てよって言われまして、喜んで飛び込んだんです。その時に何を言われたか。「先生のその言われたことで本当に元気になったんだ」って。私が何を言ったかという、「日頃の業務をきちっとやってるでしょうと。だからもっと自分らの仕事に自信を持てというか、誇りを持ちなさい」みたいなことを言ったらいいんです。日頃の業務でいい加減なことをしてるわけないだろうっていうようなことで皆さんを元気づけた。その通りだと。日常の業務を怠らず、そこで色々なことを考えながら真面目に業務をやっていることが、日頃の業務がそのまま災害時に生きてくるぜ、ということこのところが本当に大事なんだという風に私思います。ですから、この丸4番、こういうことを言っていただけののが本当に一番嬉しいです。



コーディネーター 熊谷氏

丸山先生いかがですか？

丸山氏

会社として色々取りまとめていることに対しては、よく考えられていると思います。本来、会社は社会に対してどうするかということと、社員に対してどうしているかということと、もう少し簡潔に整理できるかなと思いました。社会に対してまず何か言わないといけないことが先にあって、次に社員に対してはこういうつもりで会社としてはこう考えている、その上で社員としてはそれに従ってこういうことをやっていただきたい、というように整理できるかなという気がしました。

**コーディネーター 熊谷氏**

ありがとうございます。社会に対して発信することは大切なことだと思います。

長井先生いかがでしょうか？

長井氏

社員の皆さんが集まって考えて発信しているということなんで、非常によくまとまっているなと思ってます。基本方針の2番目、「会社は災害情報を迅速で的確に発信し、全社員に共有します」とあります。こういった情報を迅速かつ的確に、社員じゃなくて社会に発信するというのは、このエンジ新潟さんとしての基本方針なのか。あるいは本体の方が発信するというので、そこまでは触れずにエンジ新潟の中として完結させますという捉え方をしているのか、どういうお考えなのかなと感じました。

事務局

長井先生おっしゃる通りだと思うんですけども、エンジ新潟としての役割をきちんと果たすことを使命と考え、基本方針や行動方針を作っています。NEXCO本体が社会に発信するなど、それぞれの役割を果たすための方針という経緯でございます。昨年度、パネルディスカッションの中で理念の案として目指す目標を提示指せていただきました。それを土台として、今回の事務局案を作成しています。会議等での議論については、昨年度の座談会で大川先生がおっしゃった『まず、自分の命を守ることが最優先で、あとは家族を守る、身近な人を守る』ということ、植松顧問がおっしゃった『物事が起こった時にどうやって対応するのか、日頃の中で学習すること』そして、『緊急事象がおきて物流が止まるとコンビニやスーパーで物を買えなくなる、復旧するための人や物資もたどり着かない、その物流と人の流れを支えているのは我々で、その社会的使命を背負っている会社に勤めていること』を分かりやすく表現することなどの意見をいただきました。

今回はそれらを反映させ『緊急事象が発生したらまず自分の周りの安全を確保する、次に会社に行けば何かできるはずだから、いつ発生するかわからない緊急事象に備えるためだけでなく、常日頃の業務でも自分で考えて行動する事』を盛り込んだものとなっております。

コーディネーター 熊谷氏

防災憲章では社会に貢献するためと書いてあるけれど、基本方針の中では会社が主になっていて会社の使命として社会というものを加味して書かれたらどうでしょうかという意見がありました。

丸山氏

やはり社会にどういう貢献をしているかというのを会社として示す必要があって、そういう文言があった上で、ネクスコ・エンジニアリング新潟として何をやるか、社会にこういう貢献をするためにやっています、という文言があると、社員としては会社のためだけにやっているというよりは、社会に役立つ会社の中で自分がどう行動しないといけないか、が理解できると個人的には思いました。

コーディネーター 熊谷氏

防災憲章では、社会に貢献するためと自分たちの安全安心を優先に行動して命を守り社会に貢献するためと言っているからそれらを踏まえ基本方針、行動方針に社会のことも少し入れたらどうかという意見をいただきました。

長井氏

確認ですが防災憲章に書かれている「命を守ること」とは、エンジ新潟の社員とお客様の命の両方という解釈でよろしいでしょうか。

コーディネーター 熊谷氏

基本方針に書かれている、「会社は社員の命とその家族の命を守ること、お客様の安全安心を守ること」ですから社員とお客様の安全は同位置です。あくまでも我々はお客様の安全は第一優先です。澤田石社長いかがですか。

澤田石氏

まさしくその通りで防災対応を行うには、社員と家族が安全である状況でないと防災対応ができないので、社員の安否確認で安全を確認したうえで防災対応を行ってもらうことです。

三百田氏

社会に対する貢献というのは、NEXCO東日本グループとして全体として、目的は一つなんですよね。1日も早く交通解放すること、1日も早く緊急車両を通して被災地に物資を届けるための高速道路の早期開通に努めることが一番の貢献だと僕は思ってます。その中で、それを実現するためにエンジ新潟として一番大事な使命、役割はなんだろうかというのをこれから深掘りしていけばいいのではないだろうか。まずはこれでいいのかなと思うんですけども。エンジ新潟に期待される役割というのは今後明確にしていく必要があると思います。



小林氏

私も漠然と思っていたものが具体的な言葉になっている。言葉にするのは非常に難しいし、選んでいくのは難しいですけど、言葉にされたっていうのは素晴らしいなと感じました。我々メンテ新潟としても見習わなきゃいけないなと感じたところがございます。その中で、基本方針の1番に書いてある社員、家族、お客様の安全、これは当たり前ですが、特に「家族の命」を会社がどう守るか、お約束できるんですか、というのは非常に実は難しい。また、2つ目の情報発信の通信手段もその時どうなっているのか、いろんなケースが想定できます。この辺も私も悩んでいるところなので、エンジ新潟さんと一緒に、新潟グループとして何かいい方法がないか、今後勉強させていただければと感じました。

**コーディネーター 熊谷氏**

どうもありがとうございます。災害対応の理念、基本方針、行動方針について、社内で討議をして取り纏めたということです。その中で、今日お話がありました社会に関する情報収集に関することなど色々問題がありますが、防災憲章、基本方針、行動方針については、これを主として会社として進めていきたいということで宜しくお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

澤田石氏

今回の防災憲章自体は、我々のいわゆる防災に対する「心」みたいなものになるのかなと思います。災害対策基本法を改めて見ますと、その中に基本理念が6項目ほど書いてあり、それを要約すると、被害の最小化と迅速な回復、連携協力を確保し防災活動を促進、過去の教訓を踏まえた改善、人の生命身体を最優先して保護、適切な被災者の援護、復興に必要な準備と災害からの復旧などがあります。今回まとめ上げた基本方針や行動指針は、その根本のところは全てこの中のことを網羅しているものになっているんだろうかと思います。今日頂いた意見を踏まえて、修正等々し、ブラッシュアップして形をきっちり整えていくことにしていきたいと思います。

コーディネーター 熊谷氏

ありがとうございました。このテーマ1については、これを基本にしてこれから進めていくということではないかと思います。社員の皆さんが討議をして作り上げることができたということは、大川先生がおっしゃった日常の業務を怠らずに繋がっていくではないかと思います。それでは、続きましてテーマ2に入りたいと思いますので、事務局から説明をお願いします。

1. 平時に行うべきこと(リスクマネジメント)

① 平時に行う事前対策は何か？

・起こりうる危機の想定をどのように考えるか？

→昨年、基調講演においても問題なく見える現状の中に危機を認識する力が危機意識である。危機感なきところでは、危機の想定も困難「憂いなければ備えなし」。危機意識を欠如しないためには？(正常バイアス)

② 上記、課題を解決するための、対応策・組織作り・訓練は？

2. 危機に際して行うべきこと(クライシスマネジメント)

① 新潟県中越地震や東日本大震災の経験などから危機に際して行うべきことの基本は？

② 初動時のポイントは？

総括

危機管理対応のポイントは？

(15/15)

司会

それでは続いてのテーマとなります。災害時に臨機応変な判断力を養成する仕組みについて話題を移したいと思います。

コーディネーター 熊谷氏

それでは、テーマ2、平時に行う、災害時に臨機応変の判断力を要請する仕組みということで、説明をしていただきたいと思います。

事務局

はい。平時に行うリスクマネジメントとしまして、昨年度に西川先生よりご講演で“問題なく見える現状の中に危機を認識する力が危機意識であること、危機感なきところでは機器の想定も困難で『憂いなければ備えなし』”というお話をいただいております。いわゆる正常性バイアスに陥らないため、また危機意識を欠如させないためにどのような準備を行う必要があるか。この課題を解決するための対応策や組織づくり、教育訓練をどのように行っていくかについて、皆様のご経験を踏まえご示唆いただければと考えております。それと、危機に際して行うべきこと、クライシスマネジメントにつきましては、新潟県中越地震や東日本大震災の経験などから危機に際して行うべきことの基本は何か、そして初動時のポイントなど、ご経験された皆様から基本的な行動と初動時のポイントなど教えていただければと思います。これらを総括し、危機管理対応のポイントとして取りまとめていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

コーディネーター 熊谷氏

大きくは2つですね。災害時に臨機応変な判断力を養成するしくみとして①平時に行うべきこと、②危機に際して行うこと、を教えてほしいということです。また前回の座談会で植松顧問が先生方をお願いしたことがあります。若手社員に技術を伝承するための効果的な方法を伺いたい。そしてエンジ新潟の若手社員にはこのような座談会を含め様々な教育・技術伝承を行ってところであるが、どのような方法なら若手社員にベテラン社員の思いや技術を伝承できるのかお聞きしたいということです。

自由なご意見をいただいて、エンジ新潟としてどう実現するかをこれから検討していくことになると思います。それでは西川先生、よろしくお願いします。

西川氏

「恐怖」の危機感や危機意識で上げていくのは、風化するというか、あまり効果的ではないという風に言われてます。津波の映像見せて「怖いからしなさいね」というのは、その時の危機感が上がるんですけども、そんなに長続きしないと言われてます。だからこそ、繰り返し色々な防災教育もやらなければいけない。ただその時に同じものやっつけてはいけなくて、やり方としては「手を変え品を変え」てやる必要があると思ってます。最近の学生さんは動画文化ですよ。対面の授業は我慢ならんと。特にコロナ禍で授業が全部オンラインになった時は、絶対1倍速で見る学生はいない。全部2倍速、3倍速、なんならもう見ない学生もいます。なので、大事なことを短いセンテンスで、結論からできるだけ5分以内で伝える、そういった動画を用意するみたいなどころから広げていくのが大事なかなと思ってます。



長井氏

災害っていうのは突然来るものですから、なんとなく忘れてしまうところがある。やっぱり何かテーマを与えて繰り返しグループで議論をする、そういう体制みたいなものが作ればいいのかと思います。もう一つはいろんな災害があった時に、若い人たちがグループで、あるいは先輩と一緒に、そういうところの現場に行ってディスカッションするとか、そういうことを心がけていくのかなという感じがします。

丸山氏

ネクスコ・エンジニアリング新潟として、日本全国どこかで起きる災害現場にトレーニングを兼ねて人を送り、1週間とか経験してくるっていうのはすごく大事かなと思いました。現場に行くと見えないところが見えてくるのがあって、すごく大事かなと。テックフォースは結構みんな経験積んで、こういう時にはこういうことが起こりそうだとかに気づくので自信になる。



大川氏

今ここでグラグラグラって地震が来た時に、まず方向分かりますか。どっちから波が来てるか。それとどれぐらいの距離があるか。自分の感覚だけを使って物事を知ってるのはとっても大事。私の経験ではどっちから来るか分かります。それと、初期微動から横揺れが来るまでの時間、秒数を数えるんです。×8。それが距離です。それがなぜってということになると、それなりの知識が必要だから、日頃の業務が大事なんだっていうところを言いたいわけです。災害とは関係ないと思うような知識が実はベースになってんだっていうところを忘れないで欲しい。だから日頃の業務がとっても大事だあって、私なんかは言いたいわけです。



三百田氏

過去の経験と最新の知見を持って、という行動方針がありますが、伝承が苦手なんです。阪神・淡路、中越、東日本大震災など、高速道路のいろんな損害があったのに、じゃあどういう風に具体的に緊急的に直したか、という事例集が意外にないんじゃないかと思うんです。まずはその過去の経験、いっぱいあるわけなんで、その報告書の中から、エンジ新潟さんとして、いつでも「ここではこう直したんだな」と、すぐ対策本部に持っていけるような勉強、あるいは資料収集をしていただければ嬉しいなと思いました。



小林氏

防災訓練の時に、これも毎年同じことやってると形骸化してくるんですね。ですから、毎年防災訓練はやるんだけど、中身をちょっとずつ変えていってくれと、新しいことを必ず入れてくれというのを、防災訓練の担当部署に常に言ってます。シナリオも事前に絶対明かさない。知ってるのは進行役だけで、急に「ここが崩れてるぞ、さあどうするんだ？」と矢継ぎ早に指示を出す。そうしてそれに対応させる。こういうことをしてマンネリ化を防ぐ必要があります。



コーディネーター 熊谷氏

ありがとうございました。事務局から危機に対して初動のポイントについて意見を聞きたいということで何かあればそこだけでも教えていただければと思います。

西川氏

和歌山で3年ぐらい前に水管橋が落ちて人口の1/3が影響する断水が発生した時に、私自身も「多分大丈夫だろう」と思ってしまっていたところもあったんです。でも一方で初動が後手に回ったら大変やなと、自分も後悔するなと思い、あえて「大げさ」に動きました。災害対策室のように、わざと事務室にホワイトボードを持ち込んで、今の状況を全部書き込みました。それが功を奏して周りも動いてくれて、すぐ学生に（ペットボトルの水を）配布することもできました。

長井氏

初動時には、情報をできるだけたくさん集める。可能な限り、あらゆる手を使って状況をとにかく把握する努力をする。

丸山氏

立場によって自分がやらなければならないことが違ってそれがベースにあって行動することを考えることがいいのかなと思います。そのため情報収集が大事。



大川氏

阪神・淡路の時に村山政権は動きが遅かった。なぜかという質問に対して「情報が来るのを待ってました」と。バカ言ってんじゃねえぞって私なんか思った口ですよ。情報が届かないぐらいとんでもないことが起きてるって、なんでその一国の親分が判断できないのか。このこととの関連で言えば、責任を持って何かを言い出す人のことは全面的に支持をするということです。後から責任追及してはいけないということが、実は初動する上で大事です。

三百田氏

情報取りに行ってください。通信手段は途絶えています。本社は人を一人でいいですから（現場に）派遣してください。情報を、取りに行ってください。

小林氏

私が思う初動の一番のポイント、これも去年申し上げたかもしれませんが、安否確認です。とにかくそこをスタートラインに。社員の安否はもちろん、ご家族の安否、ここが分からないと動けないんです。

澤田石氏

私自身も、直後の対応のポイントを5つほどまとめてました。今おっしゃられたことがほとんど入っていて、まずは社員の安否確認。それから正確な情報収集と情報の共有。通信手段の確保。そして、私としてやらなきゃならないことは、最悪のシナリオを想定したことで動き出すということです。



コーディネーター 熊谷氏

危機に際して行うべきことの第一は、やはり情報をもらうのではなくて、取りに行こう、しっかり取りに行こうやということ。それには安否確認も大切だし、そういうことをしながらしっかり行こうやということではないかと思いました。本日はどうもありがとうございました。繰り返しますが、本日はテーマ①として、社内で作成した災害時の「基本方針」「行動方針」をテーマとして議論させていただきました。また、テーマ②として「災害時に臨機応変な判断力を養成する仕組み」について議論しました。大川先生はじめ、パネラーの



皆様には暖かくかつ実りあるご指導をいただきあらためて感謝申し上げます。次回もどうぞよろしくお願い致します。そして、会議運営をはじめご尽力いただいたエンジ新潟の皆様、ありがとうございました。

司会

熊谷様、まとめていただきましてありがとうございます。ここでパネルディスカッションを終了させていただきます。パネリストの皆様、そしてコーディネーターの熊谷様に、是非大きな拍手をお送りください。長い時間ありがとうございました。

以上をもちまして、令和7年度「新潟地域における広域災害への備え 座談会」を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

閉会あいさつ



(株)ネクスコ・エンジニアリング新潟 執行役員

取締役 技術推進部長

松木 隆

誠に恐縮でございますが、閉会にあたり一言ご挨拶させていただきます。本日の座談会、本当に大勢の皆様にご出席いただきまして、ありがとうございました。コーディネーターの熊谷様、パネリストの皆様、本当にありがとうございました。1つ目のテーマ「災害対応の理念と基本方針」につきましては、パネリストの皆様のご承認をいただきましたので、本日より、若干の修正を加えながら取り組んでまいりたいと思います。2つ目のテーマにつきましては、事前対策や準備、常日頃の訓練の重要性を再認識させていただきました。また、考える場面を作ること、そういったものも重要であるというご意見もありました。来月には当社の防災訓練もございますので、本日の意見を参考に実施できればと思っております。ご清聴いただきました皆様、準備設営していただきました事務局の皆様にご挨拶を申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

あとがき

本冊子は、令和7年度「新潟地域における広域災害への備え」座談会の記録として、当日の議論を文字起こしし、補足を加えて全体を整理したものです。パネリストの皆様からいただいたご示唆の一つひとつは、私たちが災害対応力を高め、自律した組織として成長し続けるための大きな財産となりました。

今年度は、「災害対応の理念・基本方針」と「臨機応変な判断力を養う仕組み」をテーマとして、

- ・ 防災憲章のあり方
- ・ 社員と家族の安全を出発点とした行動原則
- ・ 経験と知見の継承方法
- ・ 平時の鍛錬の積み重ね
- ・ 初動対応のあり方

など、多岐にわたる視点からご示唆をいただきました

とりわけ、日常業務の姿勢が非常時の行動につながること、特に初動では情報を「待つ」のではなく「取りに行く」姿勢が非常時には最も重要であること、若手への技術継承は“形式”ではなく“本質的な体験”によって育まれることなど、現場での経験を伴った言葉には大きな重みがありました。

今回いただいたご示唆は、エンジ新潟が今後構築していく防災体制、教育体系、訓練のあり方に確実に反映させてまいります。併せて、私たち自身の行動と意識が、地域の暮らしと高速道路を守る力につながることを、改めて深く認識する契機ともなりました。

最後に、本座談会の開催にあたりご尽力いただいたパネリストの皆様、ご参加いただいた社員・関係者の皆様、そして準備・運営に携わった事務局の皆様にご心より御礼申し上げます。

技術推進部長 松木 隆

座談会記録
「新潟地域における広域災害への備え」
(発行年月日 令和8年2月25日)

[問い合わせ窓口]

〒950-0916

新潟県新潟市中央区米山5丁目1番35号 カレント・さくらビル

TEL:025-244-8170(代表)

(株)ネクスコ・エンジニアリング新潟 技術企画部 部 付 部 長 鷺津 昌利

(株)ネクスコ・エンジニアリング新潟 技術企画部 技術企画課長 新宮 純大

■表紙写真：北陸道大潟PA付近の桜並木



植物油インクを使用しております。

